

## 長岡半太郎博士著「隨筆」

桑木彥雄

本書は我学界の泰斗長岡博士が明治二十五年以来最近に至るまでの四十五年間に折々の新聞や雑誌等に掲載せられた隨筆類六十余篇を選集せられたもので、総計六百七十ページ許りの中、初めの二百八十ページは物理学者の評伝および物理学史の断片等、多くは明治から大正の時代に書かれて、東洋学芸雑誌および博士の監修せられた科学名著集の序文等に載せられたものである。その他の、本書の三分二強を占めるものは、最近十年間における西三回の欧米旅行記、関東大震災火災、大阪大風水害の觀察、感想、大阪帝大創立の思出、大阪の文化批評、仏独文化比論等嘗て改造、思想、文芸春秋、帝大新聞、大阪二大新聞、その他若干の特殊の雑誌等に掲載せられたものである。物理学者の評伝等には物理学が如何なる問題を対象としましたこれに携わった古来の大学者たちが如何の態度でこれを取扱ったかを、専門に局限せず、常識で理解される程度に、然も最も權威ある言葉で述べられたのであるから、一般学徒を刺激し、教導するところ甚大なものがあるであろう。欧米旅行記は大正十四年と昭和六年と同十年とのであるが、英仏独における滞在、或は巨船ノルマンジー号で大西洋横断の記述等には材料の豊富なことは容易に予想されるが、朝鮮シベリヤ通過の車窓からの短かいスケッチにも横溢せる妙味滋味詩味に読者は全く魅了せられるであらう。大正十四年一週間の劍橋大学滞在記は、同大学で名誉学位を得られたときの記録で、この学位は今亡き有名な天文学者ド・ジッテル等、世界学界の耆宿たる四名と同時に受領せられた極めて名誉あるものながら、淡々たる当時の情景の叙述の中には、古い歴史を込めた同大学の風物が如実に描出せられるとともに、伝統ある學術の

權威に自ら読者をして敬虔の念を生ぜしめる。大震災や大風害の自然現象、大学創立の社会現象、種類は全然異なるがいずれもいつ誰でも経験し得るといふ尋常の場合ではない。これらに直面せられての随感随想は読者を緊張せしめずにはおかないのである。その他東京、大阪、独国、仏国のいわゆる文明批評、また思いがけない四十年前博士の留学時代の交友間の無邪気な悪戯いたずらの記事等、多種多様の題目は、読者をして想を古今東西に馳はせしめて恍惚たらしめるが、誰しも本書を通読してひとしく著者の一貫せる精神として看取するであろうものは、著者が、科学における創始的研究の重要性について随所に強調力説せられていることであろうと思われる。近時科学的精神に対する呼声の高いとき、本書の如きはこの精神の本質を教うる絶好の指針であろう。妄評多罪。

(昭和十二年一月、大阪毎日新聞)

- 桑木或雄著『科学史考』（河出書房、昭和一九年）所収。
- PDF化するにあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに改めた。
- 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
- PDF化には $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}_{2\epsilon}$ でタイプセッティングを行い、 $\text{dvi}2\text{pdf}^{\text{m}}\text{x}$ を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。